

スタート!

小中一貫教育 多久の義務教育9か年の新たな挑戦

連載 No.1

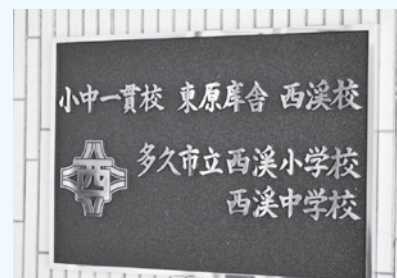
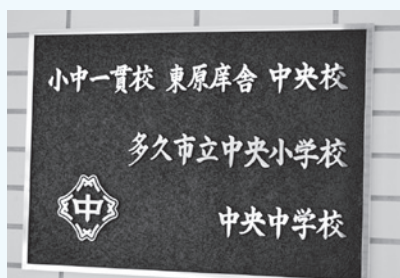
■問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-2227



いよいよ開校 小中一貫校

4月1日、多久市立小中一貫校が開校し、4月2日には中央公民館において「開校式」を行います。市内小中学校10校を再編し、市内3中学校区で小中一貫教育を同時開校する多久市の取り組み（再編と小中一貫教育のスタート）は県内でも初めての展開であり、注目が集まっています。

小中一貫校のキーワードは「つながり」です。「つながり」で育む、義務教育9年間の学びの場で、未来を担う多久市民の育成に力を注いでいきます。



▲写真は各小中一貫校に設置された学校名プレートです

新しい学校名について

子どもたちが、そして、市民のみなさんが親しみやすく、多久のよさを発信できる校名として、正式名称とは別に3校に共通して「東原庫舎」の校名が付いています。

「東原庫舎」とは、多久領4代領主・多久茂文公が、教育の振興を目的に1699年に建てた学問所です。当時としては大変珍しく、武士に限らず、学ぶ意欲のある若者は、誰もが学ぶことができる学問所として、社会に大きな業績を残す人物を数多く世に送り出しました。明治初期の多久の学校教育の始まりも、この東原庫舎の流れをくむものです。

小中一貫校の校名には、多久市の教育の原点とも言える「東原庫舎」を取り入れることで、多久市の教育を再出発させ「文教の里 多久」の実現と、開かれた学問所の精神を受け継ぎ、学校と地域とがより強い連携の基に小中一貫校を作り上げていくという願いを込めました。

9年間の育ちに責任を持つ小中一貫教育のスタート。これから、一步一步確かな歩みを進めていきます。

新たな一歩を踏みだすために

市内7小学校で閉校式

この4月から小中一貫校で新たな教育を開始するため、市内7小学校で校旗返納式・閉校式が行われました。（3月3日に納所小、3月19日に北部小・緑が丘小・東部小・南部小・中部小・西部小）それぞれ児童・教職員・地域のみならず、歴代卒業生も集い、学舎との別れを惜しむとともに、新たな教育充実に期待を込めました。各校の校長・児童が

から市長へ校旗が返納され、それぞれの長い歴史に幕を閉じました。横尾市長は「長い歴史と伝統ある小学校の学びを小中一貫校にしっかりと引き継ぎます。児童のみなさんはその主人公として頑張ってください」と言葉を贈りました。児童からは「新たな学校でしっかり勉強します」と決意表明もありました。式典後には、記念碑除幕も行われました。



▲西部小学校



▲納所小学校



▲北部小学校



▲南部小学校



▲緑が丘小学校



▲中部小学校



▲東部小学校

4月の定例教育委員会は12日(金)

時間 14時30分

場所 市役所 第2委員会室

(傍聴は自由です)

■問い合わせ 教育委員会

教育総務課 ☎75-13450